

# 信玄がつくった理想郷

— 甲府

うーん、まだ思い出せないな。はたして武田神社にお参りしたのかどうか……。

甲府市は何かと縁のあるまちだ。お隣の竜王町（現甲斐市）で区画整理の勉強会をしたのは20年ほど前のこと。事業化直前で断念したものの、その後も甲府市内で事業化検討の機会があつてよく訪れた。それなのに、甲府の原点にして象徴である武田神社参拝の記憶がない。いつそ確かめに行くかとハンドルを握った。

甲府駅の観光案内所で地図をゲットしていざ武田神社へ。駅北口から「武田通り」をクルマで約2km北上。「あれ？来たことがない！」。甲斐の国で事業化がかなわなかったのは、不信心ゆえか。

この武田神社は、名将武田信玄公を祀る社だが、かつては信虎、信玄、勝頼と武田家三代の館であつた。武田家は北に急峻な山を背負うこの地を本拠とし、南に幹線道路をつくり、家臣の屋敷、寺院、商人・職人の住まいを巧みに配置。さらに「信玄堤」に代表される治水工事も積極的に進めた。まさに「計画的なまちづくり」

謝恩碑があるのみで、平成になって20年以上かけて甲府城跡が復元され、現在は観光の目玉となっている。甲府城の築城が本格化したのは、1582年の武田家滅亡後に織田信長を経て徳川家康が領有し、豊臣の諸大名が甲斐を支配するようになってからのことだ。関が原の合戦以降は徳川の所領となり、城下町も整備されたとか。明治維新で廃城となったが、敷地は現在の甲府駅や県庁を含め約18畝に及んでいた。

「人は城、人は石垣、人は堀。情けは味方、仇は敵なり」の名言を残したのも信玄だ。大河ドラマ「真田丸」「おんな城主直虎」でも描かれているが、つまるところ名将の強さは「人」を重んじたことにあり、上杉謙信と並ぶ東の雄となった所以だろう。

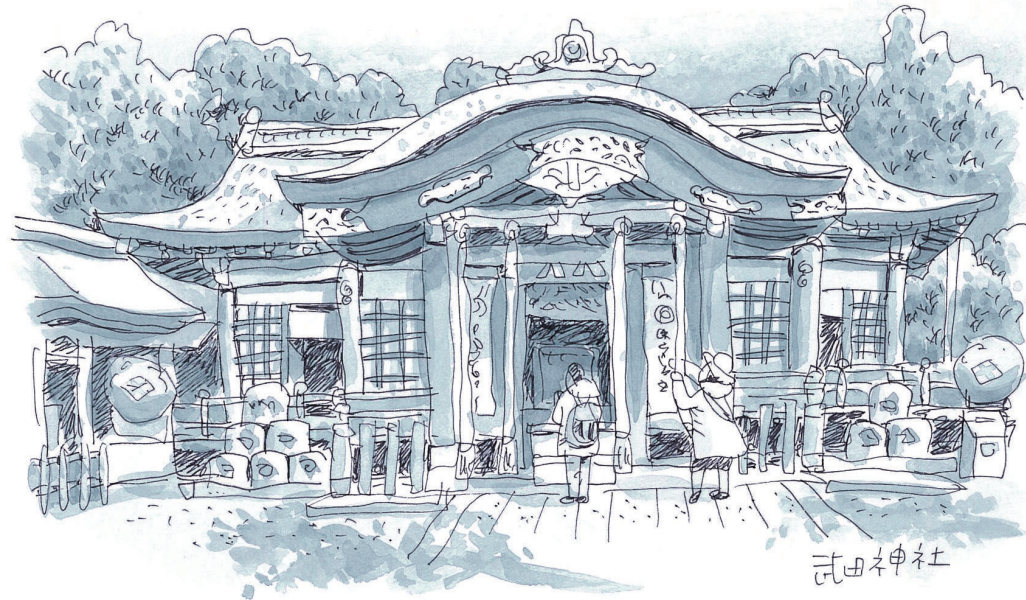
双葉50周年の会社案内作成時に、「こんなまちを創りたい」というページを設けて、街のイメージ図を載せたことがある。駅を中心に商業・業務エリアの賑わいがあり、住宅地があり、郊外にはくつろげる公園や運動施設、河川敷にはバーベキューなどの遊び場。高速道路のインターチェンジが近く、ゴルフ場もすぐ。甲府市には、そんな思い描いたままのまちなみが広がる。小瀬スポーツ公園、笛吹川、中央高速「甲府昭和IC」があり、名勝「昇仙峡」も近い。加えて「甲州ワイン」「葡萄と桃」「ほうとう」「鳥もつ煮」



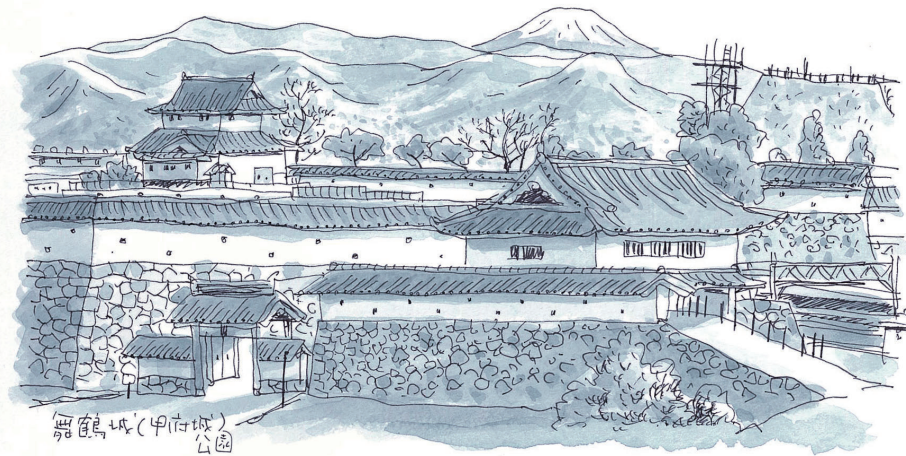
甲州銘菓「信玄餅」。粉をこぼさずに食べるのは難しい



くろ玉  
信玄餅とともに昔からの  
定番土産「くろ玉」



武田神社  
甲府駅北口から武田通りを北上したところにある武田神社



舞鶴城(甲府城)公園  
JR甲府駅に接する舞鶴城(甲府城)公園



甲府の名物、ほうとう  
かつては家庭食だった甲州名物の「ほうとう」

と食も魅力的だ。  
そうそう、隣には石和温泉、フルーツラインを上げれば絶景露天  
風呂の「ほったらかしの湯」もあったっけ。あいにくのマイカー  
だが、夕焼けの富士を眺めながら、湯上りの一献は最高だろうなあ。  
残念……。 (小野均)

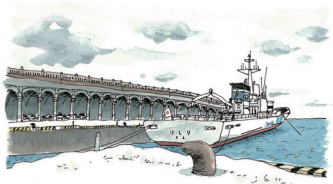
# 最北端のレトロな横丁

—— 稚内・波止場横丁

うっ、寒い。クリスマスが間近な年末某日、稚内へ出張でやってきました。何しろ稚内は、モンゴルや黒海付近と同じ北緯45度。海を挟んでわずか50km先は樺太（サハリン）という日本最北端のまちですから、寒さも半端じゃありません。

仕事が終わわり、中心街の凍結した夜道をそろそろ歩くと、商店の看板は皆ロシア語併記。閉じたシャッターにはマトリョーシカが描かれ、国境のまちを実感します。

港近くにあったのがレトロな「波止場横丁」。居酒屋に混じって、ロシア料理やスープカレーの店もあります。「内地に行きたくて東京に住んだけど、親にすぐ連れ戻されちゃって（笑）」。「ウチも兄弟は皆札幌と東京だよ」と、テーブルに向かい合う初老の男女。そうか、年配の人は内地って言うんだ。明治の頃に様々な事情を抱えて北の大地に入植した先祖を持ち、ふるさとに複雑な感情を抱く人たちの人生に思いをはせながら、ボルシチの赤いスープを口に運びます。ふーっ、あったまるなあ。このまちで暮らす人たちにも、春が早くやってきますように。



稚内港にある昭和初期に造られたドーム型の珍しい防波堤

